

尾道を拠点に日本全国を旅し、海や山、さまざまな風景や草花を豊満な色彩で描いた小林和作。本展では、今年生誕135年を迎えた小林和作に注目し、当館所蔵の油彩画を始め、植物や旅先の風景を描いた水彩画作品を展示します。

小林は初期に日本画を学び、後に油彩画に転向。日本画家、洋画家それぞれに幅広く関係を築きました。その中の一人に、洋画家の須田国太郎がいます。二人の交流は1934（昭和9）年、同時期に独立美術協会の会員となったことから始まりました。東京で開催された独立展からの帰途、須田宅に一泊して夜更けまで語り合ったという二人。その後も広島と京都、互いの家に度々訪問し、親睦を深めました。二人展を開催したり、雑誌や新聞の企画で対談を行ったりするなど、さまざまなかたちで、生涯交友は続きました。

また小林は、須田が水墨画の制作を始めたきっかけにもなっており、制作の面でも大きな影響を与えていました。この度は、小林の作品とあわせて須田の油彩画や水墨画の作品なども紹介し、二人の交友を辿ります。

【小林和作】(1888-1974) 山口県出身

小林は初め、京都で日本画を学びました。文展に出品、入選もしていましたが、次第に油彩画に親しみ始めます。そして 1922(大正 11) 年、洋画に転向する決意を固め上京。1927(昭和 2) 年に春陽会会員となってからは、同会で活動しました。しかし、1934(昭和 9) 年に独立美術協会へ移り、それと同時に尾道へ移住します。以後は亡くなるまで尾道で制作を続け、毎年春と秋には全国各地へ写生旅行に出かけて、多くの風景画を描きました。



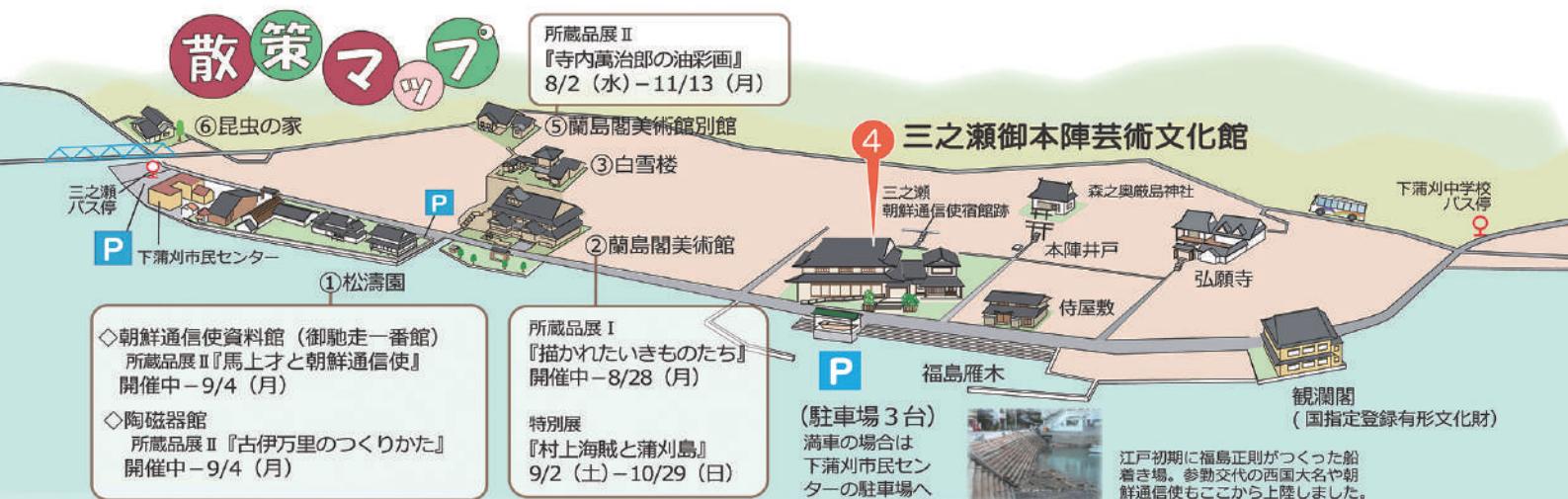
1 小林和作「あじさい」水彩・紙 2 小林和作「おにゆり」水彩・紙 3 小林和作「秋の山湖」油彩・キャンバス

【須田国太郎】(1891-1961) 京都府出身

1910(明治43)年頃から独学で絵を描き始め、1919(大正8)年からの4年間、西洋絵画の研究のためヨーロッパを遊学します。帰国後は美術史の講師をしながら絵を描き続け、1932(昭和7)年、東京の資生堂画廊で初個展を開催。そこで、滯欧中に知り合った里見勝蔵によりその画才を見いだされ、里見の推薦によって1934(昭和9)年から独立美術協会の会員に迎えられます。そこから、須田は本格的に画家としての道を歩み始め、美術史家で画家という稀有な芸術家となりました。



4 須田国本郎「雑草」1940年 油彩・キャンバス 5 須田国本郎「屋道風景」紙本着色



➡ 広島市内から車で約60分

呉市内より国道185号線を竹原方面へ。安芸灘大橋（有料）を渡った最初の島が下蒲刈島です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用できます。

指定施設にて1,000円以上ご利用の方に安芸灘大橋の
帰りの通行券を進呈！
www.takamatsu-tourism.com TEL 087-82-7315 東西

▲土日 岐阜市内から電車・バス利用の場合

JR 呉町で広駅を下車。広駅前の道路を渡ったところにある「広駅前」バス停から瀬戸内産交運行の「宮農センター・沖友天満宮行き」バスに乗車。「下蒲刈中学校」または「三之瀬」で下車。バスは上下線とも毎時1本運行しています。

[バスに関するお問い合わせ：瀬戸内産交（株）TEL 0823-70-7051]

ご来館の皆さんへ

- 発熱や軽度でも咳・のどの痛みなどの症状がある場合は、ご来館をお控えください。 ● ご入館の際は手指のアルコール消毒にご協力下さい。 ■ 新型コロナウイルス感染状況によっては、今後予定しております展覧会の変更または臨時休館をする場合がございます。最新の情報は HP をご覧いただくか当館にお問い合わせください。

三之瀬御本陣藝術文化館



アクセス方法 バス時刻表



[Instagram](#) [Facebook](#)